

Recording Date	Player(s)	Title and Composer	Time
1 1970.10.11	林 佑子 Yuko Hayashi	幻想曲とフーガ ト短調 BWV542 (J.S.バッハ) J. S. Bach: Fantasie und Fuge g moll BWV542	12' 30"
2 1973. 1. 9	アントン ハイラー Anton Heiller	みよ 十字架を (アントン ハイラー) Anton Heiller: Ecce lignum crucis	6' 27"
3 1976.10. 9	L. F. タリアヴィーニ L. F. Tagliavini	パストラーレ (ベルナルド パスキューニ) Bernardo Pasquini: Pastorale	4' 37"
4 1977.10.30	マリー・クレール アラン Marie-Claire Alain	リタニー (ジャン アラン) Jehan Alain: Litanies	3' 37"
5 1980. 9.28	トン コープマン Ton Koopman	ソナタ 第1番 二長調 第1楽章 (C. Ph. E. バッハ) C. Ph. E. Bach: Sonata No. 1, 1st movement	3' 20"
6 1985. 6.15	植田 義子 Yoshiko Ueda	いと高きところには神に栄光 BWV676 (J.S.バッハ) J. S. Bach: Allein Gott in der Höh' sei Ehr' BWV676	5' 34"
7 1988. 4.17	高橋 秀 Sakaye Takahashi	プロセッション (P. J. M. プルム) P. J. M. Plum: Procession	4' 11"
8 1989. 5.21	吉田 實 Minoru Yoshida	バッハの名によるフーガ 第6番 (ロベルト シューマン) Robert Schumann: Fuge über BACH Op. 60 Nr. 6	7' 52"
9 1989.12.10	吉野 直子+今井 奈緒子 Naoko Yoshino & Naoko Imai	古典様式のアリア (マルセル グランジャン) Marcel Grandjany: Aria in Classic Style	5' 23"
10 1990. 9.16	馬淵 久夫 Hisao Mabuchi	フーガ、クロモルヌのバス (J. -F. ダンドリュー) J. -F. Dandrieu: Fugue; Basse de cromorne	3' 12"
11 1990.10.21	廣野 嗣雄 Tsuguo Hirono	蕭師の楽 (山内 忠) Tadashi Yamanouchi: L'Art du Shôshi pour grand orgue	7' 18"
12 1991.12. 8	岩崎 真実子 Mamiko Iwasaki	フルートのノエル (ルイ・クロード ダカン) Louis-Claude Daquin: Noël sur les flûtes	6' 35"
13 1991.12. 8	戸部 豊+岩崎 真実子 Yutaka Tobe & Mamiko Iwasaki	テ・デウムへの序奏 (M. -A. シャルパンティエ) M. -A. Charpentier: Introduction to Te Deum	1' 51"

Total time: 73' 34"

## ICU礼拝堂とリーガー・オルガン

ICU礼拝堂にリーガー・オルガンを設置する作業は1970年の夏から初秋にかけて続けられ、10月11日には待望の奉献式が執り行われた。この記念すべき行事の様子は、当時のオルガン募金委員会の委員長であり、現在は国際基督教大学名誉教授である星野命氏によって、詳しく記録されている。特に当日の会衆が初めてオルガンの音を耳にした情景は、次のように生き生きと描写されている。

「…あの日あの時、つまり聖日礼拝がいつものようにリード・オルガンの前奏によって始められたが、主の祈りのあと讃美歌第2番の前奏に至って、リード・オルガンに代わって礼拝堂正面のリーガー・オルガンが、その大空間にふさわしい豊かな音量と音色をもって会堂に鳴り響いた…… その一瞬は、私の耳に今でも鮮やかである。… [その場には] 古屋安雄牧師のほか、教会員であり学校法人ICUの理事長を務めておられた東ヶ崎潔氏と、その御子息の茂氏、ボストンから来日されていた林佑子さん、… 絶大な協力をして下さった林礼子さんと寺阪娃三子さん、広報部長のハロウエイ ブラウン先生、オルガン運営委員長の清水護先生、会計をつとめて下さった遠藤左門氏、オルガン・ビルダーの辻宏氏と紀子夫人…」\*

ここに名を挙げられた方々および星野教授自身が、ICU礼拝堂にこの素晴らしいオルガンを設置するにあたって、中心的な役割を果たされた方々である。また同時にこの礼拝堂に「本物のパイプ・オルガン」を入れる計画に同意し、大いに協力してこられた教会員の皆さんの努力も忘れるわけにはいかない。こうして、今では親しみをもって「リーガー・オルガン」と呼ばれるようになったこの楽器は、以後25年にわたって毎週欠かさず日曜日の礼拝において、また同時に、最初は火曜日であったが、のちに水曜日に移され